

令和7年度 忍ヶ丘あおぞらこども園評価報告書

本報告書は、四條畷市立忍ヶ丘あおぞらこども園の教育・保育方針「自己肯定感を育む 教育・保育の推進 ～みんなとつながり、心ゆたかに自分らしく、生きる力をもった子ども～」について、自己評価結果を取りまとめたものです。乳児期の担当担任制による愛着形成、幼児期のプロジェクト型保育による主体的な探究活動、そして家庭や地域との連携による育ちの環境の整備について、各視点から総合評価を行いました。

【評価基準】◎:十分にできた・継続できている ○:おおむねできた △:取り組んだが課題が残る ×:できなかった・未対応

1. 乳児クラス

No	具体的評価項目	自己評価	気づき・成果・今後の課題
1	子どものサイン（しぐさ・喃語など）を丁寧に受け止め、応答的に関われましたか	◎	担当保育士が継続して関わることで、子どもが安心して自分の欲求を表現できています。喃語や指差しへの丁寧な応答を重ね、緊密な愛着関係が深まりました。
2	一人ひとりの睡眠、排泄、食事などの生活リズムを綿密に把握し、無理強いのない健やかな身辺自立を進めましたか	◎	子どもの体調や家庭でのリズムにきめ細かく寄り添い、排泄の間隔や食事の進み具合に合わせて心地よく進められました。自立への意欲を尊重できています。
3	おむつ替えや衣服着脱の際、次にすることを優しく伝えるなど、子どもの主体性を引き出す関わりを行いましたか	○	「おむつ替えようね」などの丁寧な声かけを徹底しました。子どもが心の準備をして自ら動こうとする姿勢を促す関わりが定着しつつあります。
4	じっくり探索できる玩具や、落ち着いて食事・睡眠ができる空間づくりをしましたか	○	発達に合わせた手作り玩具や指先を使う玩具を配置。食事・睡眠エリアの動線を分離し、落ち着いた環境作りを進めていますが、さらに遊び環境を工夫していきます。
5	担当児の小さな成長や変化を保護者と喜び合い、信頼関係を築けましたか	○	送迎時の対話や連絡帳への具体的なエピソード記述を通じて、園と家庭での姿を共有し、信頼関係を構築しています。

2. 幼児クラス

No	具体的評価項目	自己評価	気づき・成果・今後の課題
1	日々の遊びの中で生まれた子どものつぶやきや「なぜ？」という疑問を大切に受け止め、プロジェクト型保育へ繋げましたか	◎	日々のつぶやきからプロジェクト型保育へ発展しました。子どもたちの「なぜ？」を保育者が一緒に面白がり、主体的な探求活動を促しました。
2	子どもの探求活動や協同的な学びを深めるために、廃材、図鑑、自然素材などの環境構成や、空間の工夫を行いましたか	◎	興味の広がりに合わせて、多様な廃材や自然素材、関連する図鑑をコーナーに配置。協同的な学びが深まる仕掛けを工夫しました。
3	答えを教えるのではなく、「どう思う？」と子どもの考えを促せましたか	◎	問いかけを意識し、子ども同士で意見を出し合い、解決策を考えるプロセスを大切にしました。
4	保育プロセスにおける子どもの素晴らしい発見や葛藤のドラマを、ドキュメンテーション記録で適切に可視化できましたか	○	写真や言葉の掲示を工夫し、子どもたちが振り返って対話したり、保護者が活動への理解を深める一助となりました。
5	子どもの反応を見て、次の活動の予測や計画を柔軟に変更できましたか	○	子どもの関心の推移や予想外の展開に柔軟に対応し、子どもの主体性を第一にした展開ができました。

3. 健康・安全・環境管理

No	具体的評価項目	自己評価	気づき・成果・今後の課題
1	睡眠チェック（乳児呼吸、体位、皮膚温等）を規定通り確実に実施し、健康変化の早期発見を徹底しましたか	◎	午睡センサーと保育士によるダブルチェックを徹底。乳幼児突然死症候群（SIDS）への意識を常に高く持ち、確実な記録管理を実行できています。
2	玩具の誤飲チェッカー管理、および食事提供時におけるアレルギー・安全除去手順を誤りなく遵守しましたか	◎	乳児の玩具口径チェッカー管理を強化。食物アレルギー児専用トレイやトリプル確認等、食事配膳時の徹底的な安全手順が徹底され、無事故を維持しました。
3	おむつ替え前後の手洗いや食後の消毒など、感染症対策を徹底しましたか	◎	おむつ替え前後の手洗いやアルコール消毒、食卓の次亜塩素酸消毒などをマニュアル通り実施。園内での大規模な感染症流行を防ぐことができました。
4	あおぞら棟・しのぶ棟および園庭において、子どもの動線上にヒヤリハットとなる要因がないか定期的に点検しましたか	○	施設・遊具のヒヤリハット点検を月次で実行。危険箇所の事前把握により未然防止を徹底。気づいた点（ドアの指はさみガードの老朽化など）は迅速に補修を完了しました。

4. 子育て支援（保護者・地域）

No	具体的評価項目	自己評価	気づき・成果・今後の課題
1	子どもの成長や園の教育・保育活動プロセスを保護者へ分かりやすく伝えましたか	○	クラスホワイトボードやドキュメンテーションを充実させ、日々の保育のねらいや子どもの主体的な姿を開示しました。
2	保護者の悩みや不安を傾聴し、共に解決策を考えるように寄り添えましたか	○	こども園での様子を伝えつつ、家庭と園が同じ視点で子どもの発達を支えられるよう寄り添いました。
3	「おやこ教室」「プチキッズ」「子育てぽけっと（おもちゃ貸出）」等の子育て支援や、園庭開放や行事開放などを通じ、未就園児親子へ温かく接しましたか	◎	地域に開かれた公立認定こども園として、就園前の親子活動、おもちゃの貸し出し、園庭開放を温かく提供しました。孤立しがちな地域の育児不安を受け止め、相談窓口として非常に重要なハブとなりました。

5. 職員間の連携

No	具体的評価項目	自己評価	気づき・成果・今後の課題
1	職員会議や学年・クラス間の申し送りを密に行い、一貫した保育を実践しましたか	◎	クラス間での指導計画の共有や日々の申し送りを確実に実施。職員同士が主体的な保育の進捗を共有し、どのクラスにおいても子どもの様子を多角的に把握できる体制を作りました。
2	不適切保育や気になる言動があった際、管理職や同僚に相談・報告できましたか	◎	事案はありませんでしたが、不適切保育の防止に向け、職員間で気になる言動について指摘し合える雰囲気づくりを意識しています。万が一気になる場面があった際には、直ちに管理職へ報告・相談ができるよう、相談窓口の周知や日頃からのコミュニケーションを強化しています。

6.職員の資質向上

No	具体的評価項目	自己評価	気づき・成果・今後の課題
1	計画や記録が「書くだけ」にならず、日々の援助や環境構成に活かされましたか	○	計画や記録の作成に追われがちな面もあり、今後は記録をただ蓄積するだけでなく、定期的に分析し、環境構成（玩具の配置や空間の使い方など）にどう活かされたかを評価する振り返り会議の時間をより充実させ、より保育の実効性を高めていく方針です。
2	研修に主体的に参加し、その学びを保育実践の振り返りや専門性の向上に繋がられましたか	◎	プロジェクト型保育やドキュメンテーションに関する園内・園外研修へ積極的に参加し、その学びを職員間で共有しました。結果として職員同士の学び合いが定着し、園全体の保育の質向上に繋げることができました。

総合：最終総括および今後の重点課題

【本年度の総括・主な成果】

乳児クラスの「担当担任制」ではきめ細かな愛着形成が安定して進み、幼児クラスにおける「プロジェクト型保育」では子どもの知的好奇心を起点に協同的探究が展開されました。またドキュメンテーションを通じて保育活動を保護者に発信したことで、保育理解を育むことができました。地域の子育て支援としても「おやこ教室」や「プチキッズ」、「子育てぽけっと」を積極的に機能させ、市立園としての使命を果たすことができた一年でした。

【今後の課題・重点目標】

1. 【育児担当保育の更なる質的向上】：特定の大人との安定した愛着関係を育むことについて捉え直し、子どもへ関わりや保護者との連携、深めるための保育教諭の引き出し（問いかけや適切な環境調整のスキル）を高める内部研修の充実。
2. 【ヒヤリハットのさらなる『仕組み化』】：起こりかけた些細なヒヤリハット事例を単なる記録に留めず、全職員での電子的迅速共有やクロス分析へとつなげ、事故の先回り予防をさらに推進する。